



## 4月の園芸作業

## 5月の園芸作業

### 1 庭木・果樹

- ◇冬囲いの「こも」の取り外しは一気に取らず一部を開いて、風通しを良くし暖かくなってから曇天の日を選んではずしましょう。
- ◇雪害で折れたり裂けたりした枝は早めに手当てをし、裂け口には融合剤を塗って副木をあて棕櫚縄などでしっかりとしばっておきましょう。
- ◇苗木の植えつけは落葉樹は芽出し前に行い、常緑樹（イチイ、マツ類）は6月が適期です。
- ◇果樹類を主体に新芽が出る直前まで越冬病害虫の防除を行いましょう。石灰硫黄合剤を7～10倍に薄め幹や枝に散布してください。芽が出てからは葉害が出ますので散布しないでください。

### 2 菜園・花壇

- ◇雪がとけて、畑がよく乾いてからスコップなどで30cmほど耕してください。土が乾かないうちにすると土が固まりとなり根がよくはれなくなり
- ◇寒さに強いサヤエンドウなどは4月下旬ごろ種をまくことができます。
- ◇花壇用草花の苗はこまめに移植を繰り返し、伸び過ぎないように日光によく当てましょう。

### 3 鉢花

- ◇花の終わったアザレア、ツツジ類、ポインセチア、ブーゲンビレア、ハイビスカス等は切りつめ植え替えをします。
- ◇生長が目立ってきますので、固形肥料の置き肥と液肥を併用してください。液肥は1000倍で週1回が適当です。

### 4 洋ランその他

- ◇日照時間の増加と気温の上昇で各種類とも生長が目立ちますが、昼夜の温度差が大きいので換気と夜間の暖房は続けましょう。
- ◇シリンジ（葉に霧吹き）などは回数を多くし空中湿度を高め、夜間温度15度C以上の場合、鉢土の表面が乾いたら十分水やりをしましょう。
- ◇肥料は新芽の伸長に合わせて速効性の肥料（液肥など）を十分与えましょう。

### 1 庭木・果樹

- ◇ツツジ、シャクナゲなどは花後実をつけないようにこまめに花がらを摘み取っておきましょう。
- ◇バラや果樹類の新芽にアブラムシなど寄生します。また、スモモのフクロミ病、モモの縮葉病が発生しますので、開花期を避けて事前に殺虫剤や殺菌剤を散布しましょう。
- ◇ユキヤナギ、サンシュユ、エゾムラサキツツジ、レンギョウなどは、花が終わったら伸び過ぎた枝は剪定しましょう。
- ◇シャクナゲは中央部の芽は摘み取り側芽を2～3本伸ばすよう仕立てましょう。

### 2 菜園・花壇

- ◇ジャガイモは上旬、時なしダイコン、ニンジン、ホウレンソウなどは中旬、サヤインゲンなどは下旬に種をまきましょう。
- ◇チューリップ、スイセンなどは花後花首から摘み取って、種をならさないことと球根を太らせるための油粕、骨粉は同じ量を混合し1平方m当たり100～200グラムと草木灰をふた握りぐらいばらまきで与えましょう。
- ◇花壇への苗の植えつけはバンジーは上旬、マリーゴールドなどは霜にあてないよう下旬ごろ植えこみましょう。

### 3 鉢花

- ◇下旬ごろから徐々に外気温に慣らしながら戸外管理に移行します。葉焼け、低温、降霜に注意しましょう。
- ◇多くの鉢物は新芽が伸び出します。根づまりした鉢の植え替え、株分けの適期です。

### 4 洋ランその他

- ◇晴天時で室温が25度C前後となる場合は窓を開けて通風を行いよく水やりしますが、室温が10度C近くまで下がりそうな時はシリンジ程度、雨天はシリンジも中止しましょう。
- ◇温度条件が良い場合は液肥と置肥を併用し、液肥はなるべく薄く2000倍程度を週1回与えましょう。

## 庭植え果樹の選び方

◆自然条件に合った樹種を選ぶ



① 土壤に合った果樹を選ぶ

② 気象条件を考えて樹種、品種を選ぶ

(注1) 耐寒性は樹種や品種、栽培方法、施肥量、土壤排水の良否により異なる。

(注2) 耐寒性は限界温度より暖かい所でも、冬季間強い風が吹く所では寒風害で枝枯れが起きるので防風垣が必要。

土性  
土性の見分け方

砂土………砂が多い  
壤土………砂と粘土半々位  
埴土………粘土が多い  
砂壤土……砂土と壤土の中間  
埴壤土……埴土と壤土の中間

※土性とは

粘土と砂の混合割合で分けられている。粘土分が多いと保水、保肥力は良いが、一方通気性が悪く根の呼吸作用が劣り、木の生長には良くない。砂が多ければ逆のことがいえる。

主要果樹の土壤適応性・耐寒性

種別 項目	リンゴ	ナシ	ブドウ	オウトウ (サクランボ)
耐湿性	中位	中位	強	弱
耐乾性	やや弱	弱	やや強	弱
土壤物理性に対する要求度	保水、通気性のよい土を好む	保水性を好む	保水、通気性のよい土壌最高	通気、保水性に富んだ土壌
根の深さ	深根性	中位	米国系統は浅根性 欧州系統は深根性	中位
土壤条件	有機物に富む埴壤土あるいは壤土	有機物に富む深い壤土あるいは砂壤土	石灰が多く排水のよい砂質の軽い土	排水のよい肥沃な砂壤土、過湿、過乾になりやすい土は早く老衰
土壤反応	微酸性から中性 pH5.5~6.5	微酸性 pH5.3~6.1	中性を好む pH6.0~7.3	微酸性 pH6.5
肥料に対する感応性	窒素過多の害、出やすい	多肥を要求する	窒素多肥を忌む 石灰の要求度大	肥料感応性大
耐寒性 (栽培限界温度)	-30℃	中国ナシ-30℃ 西洋ナシ-27℃ 日本ナシ-25℃	-20℃~-22℃	酸果オウトウ -30℃ 甘果オウトウ -25℃

## 花ことば



◇はじめに・・・雪が融けて日平均気温が5度C以上になると、冬期間ぐっすり休眠していた多くの植物も眠りから完全に覚めて急速に活動を始めます。そのために、平均気温が5度Cを到達した時点を早春前線と呼んで植物の生長活動の目安にしています。早春前線が津軽海峡を渡って札幌に到達するのが4月15日ごろ、稚内は20日ごろといえますから旭川はその中間といってよいでしょう。

春になると、「青春時代」の頃の夢や恋などが脳裏をかすめ何となく輝いた気持ちになりますが皆さんはいかがでしょう。ガーデニング愛好家にとっても待ちに待った春ですね。そこで、今回は代表的な早春の花の「花ことば」を紹介します。

### ♣パンジー・・・私を想ってください

♥白い花の蕾がキューピットの放った愛の矢に射られ、三色に変わってしまってきたのがパンジーだといわれています。この花ことばは、三色の花の様子が物思いに沈んでいる少女の顔に似ているところからきているといわれます。別名が「人面花」といいますがよく見ると少女の顔に見えますね。

### ♣レンギョウ・・・希望

♥黄色は春の訪れを知らせる色、とくに、春を迎えた喜びを花で表現する時に使う色です。しなやかに伸びた枝と、その枝にぶら下がるように咲くモクセイ科のこの低木は英名の「ゴールデンベル」という名のとおり私たちに春の明るい希望を奏でてくれますね。

### ♣チューリップ・・・博愛、愛の告白（赤）

♥この名の由来は原産地がトルコでターバン（頭にまく布）が語源です。17世紀、オランダで熱狂的に流行し、今日に至っています。シンプルで華麗なこの花は世界的に親しまれていることから、花ことばの「博愛」は頷けるものがありますね。

### ♣カーネーション・・・女性の愛、清らかな慕情

♥5月の第2日曜日の母の日に、この花を贈るようになったのは20世紀の当初で間もなく100年になります。赤い花は「健康を祈る愛」、白い花は「亡き母を偲ぶ思い出のために」という意味があります。こまやかなひだを寄せて、幾重にも花びらを重ねるこの花の形はまさに母の心、温かく愛を重ねる優しさを感じますね。

### ♣つつじ・・・節制、情熱

♥春一番、エゾムラサキつつじから始まって、数々の品種のつつじが開花し、花色も鮮やかな赤から純白までまさに百花繚乱、私たちの目を楽しませてくれます。

花ことばの「節制」は厳しい冬の環境にも克服して花を咲かせるこの花に自制して過度にならないことの心をみただけからでしょうか。一転して「情熱」はエクスパリーつつじに見る強烈な紅い花から連想されたのでしょうか。

### ♣ヤマブキ・・・気品がある

♥金貨が谷底に落ちて花になったといわれるこの花は、鮮やかな黄金色で春の終わりを惜しむかのようにならぬまでも一輪ずつ花を咲かせています。枝がしなやかで風の吹くままに揺れることから「山振」ともいわれ、花のついた一枝はとくに優雅で気品のあるもので、花ことばどおりですね。

日本と中国に一種だけある花で、古くから愛され「萬葉集」には17も歌が残っています。

『七重八重 花は咲けども 山吹の 実のひとつだに なきぞかなしき』

（「花ことばファンタジー」中村俊子著より抜粋し作文しました。）